

緑のふるさと協力隊・中野千江さんは、この町に何を残したのか

県立川根高等学校では1月19日、緑のふるさと協力隊員として本町に1年間派遣されている中野千江さん（札幌市出身）を招き、同校体育馆で講演会を開いた。

午前8時半ごろから始まった講演には全校生徒が参加。千江さんは、本町の印象や活動を通して得たことなど、熱心に語りかけた。講演後は、生徒からの質問が相次いだ。本号巻末特集は、中野千江さんが、皆さんに贈る「ラスト・メッセージ」。

NPO法人地球緑化センター

が実施する事業の一つです。若者を1年間農山村に派遣し、まちづくりなどのお手伝いをします。

派遣前に実施される研修で

は、どの隊員もやる気に満ち

あふれた顔ばかり。最初は

自分が町を変えるんだ！

という強い意気込みで、派遣先に乗り込んでいきます。

でも実際にその町で生活してみると、隊員が想像しているほど農山村は困っていない、というか苦しいでない。みんなパワーとエネルギーにあふれ、生き生きと暮らしていることに気付くんです。

自分が川根本町に派遣され

た当初は、なぜ派遣されたのか、自分に何ができるのかと、戸惑うこともありました。でもここで暮らすうちに、次第に「自分もこの町の人のように、大らかな人間になりたい」と、自然に思えるようになつてきました。そして、「この町の人のこと、この町自体のことを、もっと多くの人に

知つてほしい」と思うようになりました。この町の自然も、川根茶も、人の温かさも、どれもこの町にしかない良さです。それを町外の人に教えてあげる。ここはいいところだけ紹介してあげる。それが、わたしにもできる「まちづくり」の形なんだと思えます。

るようになつたんです。

千江の輪

最終話

ちがあるから乗り切れるんだと思います。

皆さんもぜひ「自分に一つだけのもの・本当にやりたいこと」を見つけてください。

きつと、周りに左右されず、何事も苦にならずに、努力していけると思います。

一熱心に聴講する生徒たちを前に千江さんは、自身が1年間に経験したこと交えながら、約30分にわたって語りか

けた。千江さんは最後に、生徒たちにこう話して講演を締めくくった。

この町に来て、すごくいいなあと思ったこと。それは「人ととのつながりが濃い」ということです。わたしは札幌で一人暮らしをしていたんですが、自宅にいると誰とも会話せずに1日が終わること多くありました。自分の部屋の上下左右にどんな人が住

んでいるのかも知りませんでした。この町では、知らない人が気軽にあいさつしてくれます。何げなく歩いていても、誰かが声をかけてくれます。

「特に用はないんだけど…」

と言いながら様子を見に来てくれたり、玄関先に野菜を置いていつてくれたりする人がたくさんいます。地域の皆さんに見守られていることが、とてもうれしく思えたんです。

夏には、地区の行事に参加

させてもらい、そこで伝統を受け継がれていく様子を目の当たりにしました。年上の人

が年下の人たちに伝統・文化

を教え伝えていく。地域の人

たちがみんなで地域の良さを守っている姿がとてもまぶしく見えました。わたしもそこ

にかかわらせてもらつたこと

が本当にうれしかったんです。

わたしが住んでいる札幌市

は、人はいっぱいいるけれど

も、人ととのつながり、コ

ミュニケーションが薄い街です。人の温もりを感じることが少ないので。

皆さんは、これからそれぞ

れの目標に向かって歩いてい

くことでしょう。この町を離れる人もいると思います。こ

こでは当たり前だった人と人

のつながりや温もり。川根本

町の良さ。町の外に出たとき、

初めてそれに気付くのかもし

れません。皆さん、古里の良

さをずっと覚えていてください。

そしてこの町の良さをど

んどん外に広めていくべき

い。ここに誇りを持ち、自

分の町は良いところだと、紹

介できる人になつてください。

皆さんにできる、まちづくりの第一歩だと思います。

わたしも、ちゃんと札幌市

の自慢を紹介できる人になりたい。そして、この町の良さを、一人でも多くの人に伝えている人になりたいです。

川根高等学校 深沢秀明 校長

昨年の暮れ、役場の企画環境課から、中野千江さんの講演を開いてみたらどうかと打診がありました。川根高校としても、これは貴重な機会だと考え、快諾しました。

当初は3年生のみでこじんまりやる予定でしたが、緑のふるさと協力隊の意義を知り、考えが変わりました。多くの生徒に聞いてもらいたいと思い、全校生徒参加にしました。この町を、外からの視点で見つめた話はとても新鮮で、楽しく聞くことができました。

生徒たちからも、活発な質問が飛び出しました。それぞれに得るものがあったんだと思います。

3年2組 荒波祥吾さん

わたしは中野千江さんに、どうすればこの町はもっと良くなるのかと尋ねてみました。すると「この町は今のままで良いところがいっぱいある。でも外へ向けたアピールが足りないので。もっとみんなが町外の人に向けて、ここは素晴らしい町だと自信を持って紹介してほしい」と答えてくれました。

わたしたちが普段何とも思っていないようなことでも、改めて考えてみると「あれも良さなのかも」と思える場面がたくさんあることに気付きました。これからは、自分が暮らすこの町に誇りを持ち、大切にしていきたいと思います。

一熱心に聴講する生徒たちを前に千江さんは、自身が1年間に経験したこと交えながら、約30分にわたって語りか



Fukazawa Hideaki



Aranami Shougo

